

◇歴史的建造物を活かしたまちづくり～トレカで建築の記憶を手のひらに

原田正彦(山口近代建築研究会代表)

〔初めに〕

○原田正彦プロフィール

○まちづくり活動歴

1. 山口県内の歴史的建造物はどこにある？

- ・「やまぐち近代建築ノート」82 件にみる県内近代建築の地域的分布
- ・歴建が集まる場所の建築ウォッチングは面白い！
- ・「日本遺産 関門ノスタルジック海峡」の歴建ウォッチング

2. 歴史的建造物の歴史的、文化的価値を広める私の活動

- ① 仲間をつくる、広げる
- ② 建築マップを作る
- ③ 町を歩く、物語を発見する
- ④ 疑問を徹底的に調べ、新たな発見につなげる
- ⑤ 様々な講演会を企画する
- ⑥ ホームページを作成、公開する
- ⑦ Facebook(SNS)への投稿と活用
- ⑧ 顕彰事業を行政と実施する
- ⑨ 地元紙に建築記事を連載する
- ⑩ 地元TVに出演する
- ⑪ 「近代建築ノート」出版！
- ⑫ 「歴史的建造物トレカ」を作成、配布する

3. 「歴史的建造物トレカ」の活用と作成方法

○ マスコミによる「近代建築とトレカ」

○ 「歴史的建造物トレカ」作成配布のメリット

- 1) 建築史理解の普及、保存意識の醸成
- 2) 希少性とプレミア感、コレクション性
- 3) 若年層への浸透が期待できる
- 4) シリーズ化すれば、スタンプラリー的展開が可能
- 5) 観光資源としての再認識、再評価への切っ掛け

○ 私のトレカ作成例

○ Word で作成する「トレーディングカード」

- 1) 「新規」→「レイアウト」→「サイズ」→「その他の用紙サイズ」→幅 94mm×高さ 69mm
として設定。※実際のカードサイズ(88mm×63mm)より 6mm 大きく
- 2) フォントや画像のレイアウトはこの範囲内で自由に
- 3) 外観、内部、細部意匠などの使用画像はあらかじめ準備しておく
- 4) 最後、保存の際は、*.docx と*.pdf 両方で

トレカ表面

サブタイトル(左): フォント「HGP 創英角ゴシック UB」7pt

メインタイトル: フォント「HGP 創英角ゴシック UB」11pt

場所・年代(右): フォント「HGP 創英角ゴシック UB」6pt ※字間は「フォント」で調整

メダル: 特に顕彰事業や記念事業ではあった方がよい。ネットでメダル画像を検索し、気に入ったものを Word で取り込み、文字を挿入。その際、「背景」を透明にする。その画像をキャプチャーして切り取り、「トレカ本体」に挿入する。



コメント(下): フォント「HGP 創英角ゴシック UB」6pt ※字間は「フォント」で調整

画像: *.jpg 形式、解像度の高いものを「挿入」→「画像」で取り込む。画像をクリックして、「図の変更から」でもOK。表画像は全景外観。

背景: カード全体の印象付けに大事なポイント。私は、外壁材料(レンガ、下見板張り、タイルなど)を使用してきた。「デザイン」→「ページの色」→「塗りつぶし効果」から「画像選択」。又は、「挿入」→「ヘッダー」→「ヘッダーの編集」→「画像選択」。これで表裏とも背景画像が挿入される。

トレカ裏面

タイトル: フォント「HGP 創英角ゴシック UB」8pt

本文: フォント「メイリオ」5pt、400 字程度

QRコード: 「山口近代建築研究会ホームページ」内の「山口高校記念館」のリンク URL を基にアプリで作成後、画像を貼り付け(かなり小さくても読み込める)。スマホで読取ると WEB ページにリンク。読みやすく、理解しやすい。



画像: *.jpg 形式、解像度の高いものを「挿入」→「画像」で取り込む。画像をクリックして、「図の変更から」でもOK。裏画像は内部空間の魅力あるもの。

背景: カード全体の印象付けに大事なポイント。私は、外壁材料(レンガ、下見板張り、タイルなど)を使用してきた。「デザイン」→「ページの色」→「塗りつぶし効果」から「画像選択」。又は、「挿入」→「ヘッダー」→「ヘッダーの編集」→「画像選択」。これで表裏とも背景画像が挿入される。